

# 下田歌子記念女性総合研究所 ニューズレター

No.11  
2018年7月

下田歌子研究所は、下田歌子記念女性総合研究所に名前が変わりました。

## 所長 ご挨拶



所長  
広井 多鶴子

本研究所は2011（平成23）年7月に設置された実践女子学園PJ研究下田歌子研究所の実績を踏まえ2014（平成26）年4月に恒常的な学園附置の研究所として誕生しました。その後、2016年度に大学附置の研究所となり、本年度（2018年4月）から、「実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所」へと改称いたしました。

また、本研究所は開設以来4年間、前学長の湯浅茂雄教授が所長の任にあたってきましたが、本年度から人間社会学部の広井が所長を務めることとなりました。私の専門は教育学と家族史であり、主に親子関係の歴史や親子関係に関する制度・政策の研究を行ってきました。そうした関係で、女性や子どもの問題に関心を持ち続けてきましたので、本研究所においても女性の社会的地位や役割に関する研究を行っていきたくと考えています。湯浅先生のあとを引き継いで、所長という重責を担うのは大変荷が重いのですが、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本研究所は、今年度の名称変更にもなつて、研究所の目的を「創立者下田歌子と実践女子学園の業績を検証するとともに、女性に関して学際的、総合的な研究を行うことを通して、女性の社会的地位の向上に寄与することを目的とする」というように改めました。そして、これまで行ってきた創立者下田歌子および学園に関する調査・研究を第1部門とし、新たに女性の社会的地位の向上や女性のあり方などに関する学際的、総合的な調査・研究を行う第2部門を設置することにしました。

第1部門には今年度久保貴子専任研究員を迎え、研究所の体制を整えることができました。部門長の高瀬真理子教授と久保専任研究員を中心に、これまでの研究を引き継ぎながら、創立者下田歌子と本学に関する研究をさらに発展させて行きたいと考えています。

第2部門では、部門長の高橋桂子教授を中心に「女性キャリア形成研究所」（プロジェクト研究所、2015～2017年度）の成果を踏まえ、主として女性のキャリア形成や社会進出に関する研究を進めます。また、本学では多くの教員が女性に関する様々な研究を行っていますが、そうした研究を集約し、社会に発信する役割を果たしたいと考えています。

創立者下田歌子は、女性の社会的な地位が低かった時代に、女子教育を通じて女性の社会的地位の向上に献身しました。下田歌子記念女性総合研究所は、そうした下田歌子が創立した本学らしい研究を行うことで、「女性が社会を変える、世界を変える」を建学の精神とする本学の社会的なミッションを果たしていきたいと考えています。みなさんのお力添えを心よりお願い申し上げます。

（ひろい たづこ 本学教授）



## 第1部門長 ご挨拶



兼務研究員

高瀬 真理子

今年度からの組織改変に伴い、本研究所は名称を改め、大きく二部門に分かれることになりました。わたくしは、昨年度より旧下田歌子研究所の兼務研究員となり、本年度、従来からの学園を含む下田歌子研究を司る第1部門所属となりました。その部門長を拝命いたしました高瀬真理子でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

わたくしの専門分野は日本近代文学で、実践女子短期大学から、実践女子大学文学部国文学科、同大学院文学研究科と進んで現職に至ります。わたくしの学生時代は、内田百閒のお弟子である多田基学長（当時）から、下田先生の生涯についてのお話が入学式の式辞の中にあるくらいで、大学側があまり下田先生について語らない時期でした。

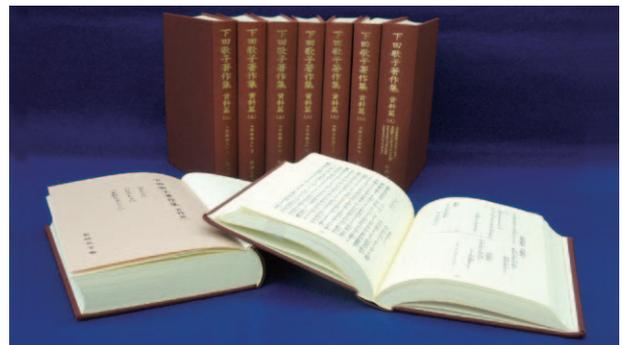
幸いにして、短期大学時代の恩師が卒業生教員の板垣弘子先生でした。板垣先生からの薫陶の中に実践女子の精神が備わり、多くの教え子たちに受け継がれたと思っておりますが、その板垣先生が教員生活の後半に『下田歌子著作集 資料篇』の編纂に携わられました。わたくしも、それら先生のお仕事の一端をお手伝いする形で下田先生に触れることになりました。

1997年に下田先生の実家に当たる平尾家の血統について調べてみたことがありました。そのときに気づいたことは、その時々の評伝の編纂方針によって、家系にすらもある種の意図を込めることができるのだということでした。わたくしがそこに着眼したのは、客観的な調査によって、女性の先人として下田歌子をきちんと再評価する必要があると思ったからなのですが、その後の海外研修やそこから着眼した私自身の専門領域の研究に追われ、板垣先生

という大きな柱があったことをいいことに、後回しにしてしまいました。先生がお辞めになるときに、あとを託されたにもかかわらず、なかなかそれに応えることもできませんでした。昨年度、意を決して研究員となり、やはり下田先生再評価のよすがとして、基本的な評伝作成の必要性を感じ、その骨になる年譜作りに着手しましたが、なかなか片手間では済まない厳しさを感じているところでございます。

今年度、現在の立場をいただきましたので、任期の限り、第1部門の研究推進に努めてまいりたいと存じます。第1部門は客員研究員の多い部門で、第2部門とは、構成員や研究領域等の特徴も違います。第1部門の特徴を活かして客員研究員の方々それぞれの研究を尊重しながら、今まで培ってきた研究を、今回着任した専任研究員とともに維持し、さらにチームとしては、下田歌子のこれまでに判明している業績の再評価を行い、且つ発信し、実践女子ブランドの再構築に資するような良好な循環を創り上げられればと考えております。みなさまからのご指導ご鞭撻、また、当研究所へのご理解をよろしくお願ひ申し上げます。

（たかせ まりこ 本学短期大学部長・教授）



板垣弘子編『下田歌子著作集 資料篇』全9巻 実践女子学園  
1998(平成10)年～2002(平成14)年刊



講演会 「女性とくいのち>の場づくり」



シンポジウム 「学祖研究の現在」



講演会 「揺りかごを動かす手は世界を動かす」



研究会 (滋賀県東近江市) 「聚心庵」見学



研究会 (滋賀県東近江市) 淡海女子実務学校旧校舎見学



研究会 (滋賀県東近江市) 近江商人屋敷見学



下田歌子賞募集記念特別展示 (愛知県東海市)



**下田歌子研究所**  
これまでの活動  
〈 2014.4 ~ 2018.3 〉  
(平成26年度) (平成29年度)



学祖ご命日 (10月8日) 特別展示



護国寺墓参



常磐祭 (日野キャンパス) 特別展示



新人職員研修 「下田歌子に学ぶ」



研究会 (新潟市) 新潟市歴史博物館見学



研究会 (新潟市) 北方文化博物館見学



新編下田歌子著作集復刊  
『女子のつとめ』『婦人常識訓』



年報『女性と文化』第1～4号発行



『ニューズレター』No. 1～10発行

## 第2部門長 ご挨拶



兼務研究員  
高橋 桂子

この度、下田歌子記念女性総合研究所に新設されました第2部門の部門長を拝命いたしました、生活科学部の高橋桂子でございます。専門は生活経営学、本学では「日本経済論 a」、「家庭経営学」や「生活経済論」などの講義を担当しております。これから、どうぞ、よろしく願い申し上げます。

さて、私たち、新たに加わりました第2部門は、2015～2017年度、本学プロジェクト研究所として3年間の期間限定で設置されておりました「女性キャリア形成研究所」がその母体となります。その「女性キャリア形成研究所」の渋谷キャンパスから6人、日野キャンパスから5人が、伝統ある下田歌子研究所の第2部門に参加させて頂きました。格式ある下田歌子研究所のお仲間に入れて頂き、メンバー一同、ますます本学学生のキャリア形成支援に力をいれましょと気持ちも新たに張り切っているところでございます。

「女性キャリア形成研究所」での3年間は「なんでもやってみよう」の精神のもと、メンバーの得意とする分野や取り組むべきと考えていることをキャン

パス内外に広く取り組んでまいりました。具体的にキャンパス内の取り組みとしては、助手さんトーク、内定者トーク、社会人トークがあります。在学生の身近なロールモデルのひとつは、キャンパスライフのあらゆること、友達とのことや学生の本分である勉強のことなどに親身に相談に乗ってくれる助手さんです。助手さんは社会人生活を経験した方が多いのですが、学部時代の就職活動、初職として選んだ決め手、仕事内容、そして助手に至るキャリアパスについて、ランチタイムの和やかな雰囲気の中、お話頂きました。内定者トークは、7月頃から金融機関、アパレル、食品や教員採用など業種別に開催しました。6時限という遅い時間帯の開催にもかかわらず、参加者は熱心に質問しておりました。そして社会人トーク。登壇頂く社会人は必ずしも本学卒業生とは限りませんが、我々教員からみて「きらり」と光っている旬の方、具体的には市役所、コンサルティング、百貨店や住宅メーカーにお勤めの方に、仕事内容についてお話頂きました。

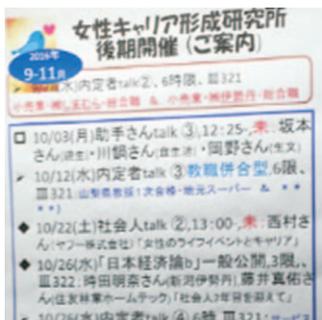


写真 左からPR 掲示、内定者トーク（企業、小学校教員）、常磐祭（筆者撮影 以下同様）



メンバーによる女子大学訪問

常磐祭では活動紹介パネル展示に加えて、本学卒業生の代表的職業のひとつである家庭科の教員として活躍されている方にご講演頂きました。

もちろん、キャンパス外にも出かけます。その代表格は何とんでも「OJプロジェクト」です。このプロジェクトは本学キャリアセンターの串崎扶美子氏のご尽力・ご支援があってこそ実現したプロジェクトです。具体的には、学部学生が本学卒業生の職場を訪問し、仕事内容や大学生活の過ごし方などをお尋ねし、自分たちのキャリア形成の一助にしようというものです。名刺を作成しスーツ着用で企業を訪問します。教員も同行いたしますが、教員の役割は黒子、カメラマンです。ヒアリング開始の挨拶から終わりのお礼の挨拶まで、すべて参加学生がこなし、帰着後は報告書を作成するというタフなものです。就職活動前にこの貴重な企業訪問を体験できた学生さんたちは刺激を受け、背筋がのびて、自分の目標がクリアになり、学びの姿勢も大きく変化していきました。実現までの担当教員の裏方仕事は結構大変でしたが、その分、学生の成長が可視化された成果としてかえってくる、手ごたえ十分のプロジェクトでした。

この「OJプロジェクト」取り組みのきっかけとなったのが、メンバーによる女子大学訪問です。少子化時代、いずれの女子大学さんも存続をかけて特色ある教育プログラムを出しています。2016年6月に京都女子大学さんを訪問したとき、「Woman Project」に取り組んでいることを伺い、早速、本学でも取りかかりました。同年訪問した同志社女子大



ママ tomo パパ tomo カレッジ@実践女子大学

学さんからはビッグ・リトルシスター制度や学び直しプログラムを、翌年訪問した武庫川女子大学さんからは対外的PRの重要性、神戸女学院大学さんからはキャンパス内の美しさが学生の生き方を育てることなどを学ばせて頂きました。

学外との連携としては(株)ベネッセコーポレーションさんと一緒に取り組んだ「ママ tomo パパ tomo カレッジ@実践女子大学」があります。渋谷キャンパスに450人のパパママ赤ちゃんが集合！学生さんデザインによるオリジナルペットボトルを作成し、生活科学部の幼児保育専攻の学生さんたちがお助け隊として赤ちゃんやパパママをサポートしてくれました。今年度も9月に開催する予定です。

下田歌子記念女性総合研究所第2部門として初年度の取り組みは、「なんでもやってみよう」精神をベースに、研究所の名にふさわしいアカデミックな要素の添加を意識して、両キャンパスの学生さんを対象としたキャリア意識形成などに関するアンケート調査を実施する予定です。

私どもの活動は、メンバーの頑張りはもちろんのこと、本学卒業生・在学生、教職員の皆さま、そして同僚・仲間の支援なくては実現が難しいものばかりです。「魅力ある女子大学生を育てたい」という熱い想いを大切に、下田歌子先生の教えである、生き生きと自分らしく生きることができる女性を育てるべく、一同、精進して参る所存でございます。

改めまして、ご指導ご鞭撻賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

(たかはし けいこ 本学教授)

## 専任研究員 抱負



専任研究員  
久保 貴子

この4月より下田歌子記念女性総合研究所の専任研究員として赴任しました久保貴子と申します。浅学菲才の身ですが、先生方、職員の皆様からご指導ご鞭撻を賜りつつ、微力ながら誠心誠意つとめたく存じます。

現代は目まぐるしくさまざまなものが変化し、多様な価値観が併存していますが、私立大学も多様な教育方針のもと、改変を繰り返しながら時代のニーズに対応した教育を展開しているように見えます。このような変化は社会の公器である教育機関としての役割を思えば当然のことですが、一方で変化の過程の中でも変わらない部分、すなわち核となる部分を持っていることは、多様性の時代であればこそ重要な意味を持つように思います。

実践女子学園の中で、支柱というべき部分が学祖下田歌子先生（以下敬称略）の教えであり、業績であることは論を俟ちません。「下田歌子記念女性総合研究所」という学祖の名前を冠に据えて女性を総合的に研究する機関を持ち得ていることは、客観的に見ても、学園の誇りであり、強みではないでしょうか。

下田は生前、誰もが知る教育者であるとともに、歌人、国文学者としても高い評価を受けていました。その背後には、伝統的な古典文学をめぐる該博な知識がありました。下田の書き残したものには、そうした知識を自家薬籠中の物として、自在に行使しているさまが見て取れます。また家政学者としての顔もあり、その方面でも高く評価されています。まだまだ下田の著作の中に、教育史や文学史の上でも、また家政学の上でも研究対象とすべき作品が多



昨年度の研究会にて（新潟青陵学園）

数残されているように思われます。学祖の著作を学び、学祖の警咳に接することは、自分達のアイデンティティを確かめることでもあります。

下田が生きた激動の時代は、女性の社会参画に対してさまざまな制約がありましたが、そのような時代に女子教育の必要性を説くだけでなく、女子学校を創設し、多くの原稿を書き、全国を飛び回った行動力は傑出しています。社会福祉事業家としての顔も忘れてはならないでしょう。

この研究所は、下田に学ぶことを土台に、現代に即した多種多様な女性の社会参画を総合的に研究し、広く発信していきます。現代は情報発信の時代です。残念ながら、まだまだ下田の真価が世間に知られているとはいえません。下田の広域にわたる多大な業績はもっと知られてよいと考えます。現代の女性が生きるためのヒントもたくさん眠っているように思います。

もちろん外に目を向けるだけではなく、学園に学ぶ学生生徒、すなわち下田の娘達にも、学祖の教えはしっかりと伝えられなければなりません。現代は多様化の時代といわれますが、情報化社会のもと、学生生徒の均質化・標準化も進んでいるように思われます。だからこそ、学園独自のカラーに価値が求められるのであり、学祖教育の意義は増大しているのではないのでしょうか。

充実した学祖教育のために、研究に教育に全力を尽くすことを重ねてお誓いして、抱負のことばといたします。なにとぞよろしくごお願い申し上げます。

（くぼ たかこ 本学専任講師）

## 新編下田歌子著作集『女子の心得』 (兼務研究員 湯浅茂雄校注) 刊行



下田歌子は、その生涯において多くの著作を残しましたが、その著作は絶版となっており、一般の方が目にする機会にはほぼありません。女性のより一層の活躍が求められる現在において、日本の女性の生き方を真摯に考えた下田歌子の著作は、改めて読み直す価値があると考えます。

本研究所では、現代の日本の社会に資するところが大きいと判断される著作を選び、「新編下田歌子著作集」と銘打って出版事業を行っています。これまで平成27年度に『婦人常識訓』、平成28年度に『女子のつとめ』（現代語訳）、平成29年度には『女子の心得』を刊行しました。原版の旧漢字・歴史的仮名遣

いは現代通行のものに改め、文語調の部分には注を施しました。読みやすくなった新編著作集を通して、あらためて下田の言葉に触れ、現代さらに未来の女性を考える糧にさせていただきたいと思います。『女子の心得』もその「解説」で執筆者の湯浅茂雄氏が的確に述べるように、上編は古今東西のすぐれた女性の博搜から「心の整え」を説き、後編は明治期の礼法書としても高水準のものとなっています。以下、本書の「目次」と本書の価値を論じた「解説」からその一部を抜粋して掲載することで、本書の威容を紹介します。なお、平成30年度には『結婚要訣』の刊行を予定しています。  
(久保貴子)



### 『女子の心得』- 目次 -

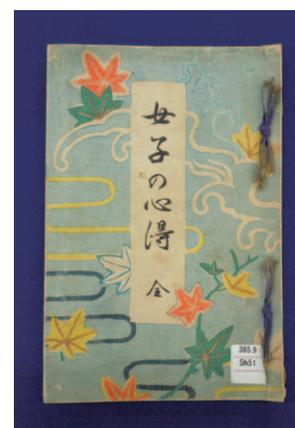
緒言

上編 心のと、のへと行為と

- 一 正実なるべきこと
- 二 仁慈なるべきこと
- 三 恭謙なるべきこと
- 四 貞肅なるべきこと
- 五 快瀾なるべきこと
- 六 勤儉なるべきこと
- 七 堅忍なるべきこと
- 八 沈着なるべきこと
- 九 高潔なるべきこと
- 十 優雅なるべきこと

下編 形のと、のへと動作と

- 一 座作進退の法
- 二 物品薦撤の法
- 三 対話に関する作法
- 四 訪問に就きての作法
- 五 接待に就きての作法
- 六 贈与品に関する作法
- 七 吉事に関する作法
- 八 凶事に関する作法
- 九 食礼
- 十 礼服



『女子の心得』富山房、  
1906(明治39)・6・5(三版)

## 「解説」より

下田歌子は、明治三十年頃から精力的に女性向けの文庫の執筆、刊行に取り組んでいる。しかも、これらすべてが下田歌子の書き下ろしになるものである。

本書の内容は上編と下編の二部からなり、下田は、ほぼ等分の分量を充てている。上編は「心のととのへ(整え)と行為と」であり、下編は「形のととのへ(整え)と動作と」である。まず心のありよう(心の持ち方)が定まって、それが目に見える(所作・動作等

の)形になることから、心の整えを説いてから、形の整えを説くという構成になっている。

上編の内容は、今日においても男女の別に限らず「心の整え」の書として多くのヒントを含むものである。

下編の内容は、明治期の礼法書として最高峰のものと言ってよく、文化史の資料としての価値も大きいものである。  
(ゆあさ しげお 本学教授)

(四六判、174頁、三元社、2018・3・31発行、本体1900円+税)

# 実践女子大学 下田歌子記念女性総合研究所

## 平成30年度 研究員一覧

広井多鶴子 (所 長)

### 第1部門

### 第2部門

久保 貴子 (専任研究員)

高瀬真理子 (第1部門長・兼務研究員)

高橋 桂子 (第2部門長・兼務研究員)

愛甲 晴美 (客員研究員)

深澤 晶久 (兼務研究員)

小林 修 (客員研究員)

志渡岡理恵 (兼務研究員)

鈴木 隆一 (客員研究員)

村上まどか (兼務研究員)

関 登美子 (客員研究員)

織田 涼子 (兼務研究員)

竹内 整一 (客員研究員)

数野千恵子 (兼務研究員)

松下 寿久 (客員研究員)

牛腸ヒロミ (兼務研究員)

湯浅 茂雄 (兼務研究員)

細江 容子 (兼務研究員)

横山 幸司 (客員研究員)

松田 純子 (兼務研究員)

若森 慶隆 (客員研究員)

須賀由紀子 (兼務研究員)

駒谷 真美 (兼務研究員)

山下早代子 (兼務研究員)

山根 純佳 (兼務研究員)

清田 夏代 (兼務研究員)

## 今年度の活動予定

6月 16・17日 岩村墓参  
 7月 ニュースレター No. 11 発行  
 9月 「学長と行く、学祖故郷の旅」 参加  
 第1部門研究会  
 (淡海女子実務学校旧校舎・聚心庵)  
 ママ tomo パパ tomo カレッジ 開催  
 10月 護国寺墓参  
 渋谷キャンパス常磐祭 参加

11月 日野キャンパス常磐祭 参加  
 12月 下田歌子賞 特別展示 (恵那市岩村)  
 1月 ニュースレター No. 12 発行  
 3月 「下田歌子記念女性総合研究所 年報」  
 第5号発行  
 新編下田歌子著作集『結婚要訣』刊行

## 常磐祭で講演会と展示を行います

詳細は本研究所 HP でお知らせいたします。随時ご覧ください。(http://www.jissen.ac.jp/shimoda/)

### 1. 渋谷キャンパス

#### (1) 講演会

【日 時】 2018年10月13日(土)  
 11:00～12:00

【場 所】 渋谷キャンパス 703教室

【講演者】 松下玲子氏 (本学卒業生、現武蔵野市長)

#### (2) 下田歌子先生の歴史及び学園の歴史に関する展示 第1部門、第2部門の研究成果 など

【日 時】 2018年10月13日(土)、14日(日)  
 10:00～16:00

【場 所】 渋谷キャンパス 703教室

### 2. 日野キャンパス

#### (1) 講演会

【日 時】 2018年11月4日(日)  
 11:00～12:00

【場 所】 日野キャンパス 本館362教室

【講演者】 麻生愛子氏 (本学卒業生)

詳細は、本研究所 HP をご覧ください。

#### (2) 下田歌子先生の歴史及び学園の歴史に関する展示 第1部門、第2部門の研究成果 など

【日 時】 2018年11月3日(土)、4日(日)  
 10:00～16:00

【場 所】 日野キャンパス 本館362教室

『ニュースレター』No.11

発行：2018年7月4日 編集・発行所：実践女子大学 下田歌子記念女性総合研究所

〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1 電話・FAX：042-585-8945 E-mail：shimoda-ins@jissen.ac.jp

印刷：日野テクニカルサービス株式会社